

大学で学んだことは 役に立つのか？

私はこの大学で「論文の読み方・書き方」という授業を担当しています。この名称からして皆さんは、何か実用的なもの、役に立つ「テクニック」を教えてくれる授業と思われるかもしれませんが、そのようなことは2の次、3の次、もっと根本的な「自分の頭で考える」ことを身につける、というのがこの授業の目的です。

Q 「自分の頭で考える」とは？

大学は中学・高校の次に進む学校と思っている人も多いでしょう。でも、大学での「学び」は、高校までの「勉強」とは全然違います。では何が？簡単に言ってしまうと、高校までの勉強は知識を「教えてもらう」ことが中心ですが、大学での学びは知識を活用して自分なりに「考える」ことが中心になります。もちろん、講義で専門的なことを教えてもらうことも大切ですが、それはあくまで前提のお話。学んだ知識を基に「では、あなたはどう考えるの？」が大学で求められることなのです。

Q どんなことでも自分の意見を言えればいいの？

では、考えたことなら何でも思いつきでもいいのかといえは、残念ながら、そんなに甘くはありません。友達同士ならいいでしょうけれども、反対の意見を持っている人は全く聞いてくれないでしょう。話を聞いてもらい、納得してもらうためには、自分の意見が説得的であることを相手に伝えなければいけません。そのために大切なのが、客観的な資料・証拠や論理的な思考・表現なのです。論文というものはただ調べたことをまとめたものでも、あるいは自分の意見をとうとうと述べたものでもありません。

大学の全てを活用しよう！

自分の意見をきちんと相手に聞いてもらえるようにする、ということはコミュニケーションの基本です。コミュニケーションは、社会に出てからも非常に大切なものですから、単なるテクニックで済まされるものではありません。大学で学んだことは役に立つか？大学は受身で「教えてもらう」場ではありません。自ら主体的に「学ぶ」場です。役に立つか立たないかと受身で判断するのではなく、自ら役立つように活用すべきなのです。大切なのは「皆さん自身が」活かせるかどうか。この大学全てを大いに活用して下さい。



■論文の読み方・書き方a1・a2・
c1・c2

宮崎 文彦

(みやざき ふみひこ)

専門は、行政学／政治理論、公共哲学。哲学や思想と現実の政策をどうやって結びつけるか、といったことを考えています。とともに音楽を始めとする芸術全般や、聖書研究も私にとって大事な「ライフ・ワーク」です。